地元に驚きと落胆

中山前大臣 不出馬の意向

次期衆院選で、宮崎1区が3日、不出馬の意向を関係者に伝えたことが明らかになった。一連の問題発言の責任を感じた上での決断だったのか。4日、宮崎市内のホテルで記者会見を開き、すべてを話したいとしている。すでに中山氏の公認申請を決めていた自民県連からは落胆の声が上がった。一方、野党からは「辞めて当然。県民の審判を受けるのを怖がった」などと一斉に批判。市民からも「あれだけの発言を繰り返したのだから、仕方がない」と冷静に受け止めた。【衆院選取材班】

自民党

小林市の党員は「冷めた反応」

中山氏の出身地・小林市のある自民党員は「あの人は（宮崎市に）出て行ったから、地元は冷めた反応」と淡々と語った。

中山氏は地元・小林中学から鹿児島市の私立ラ・サール高校に進学。東大法学部を卒業後、大蔵省（現・財務省）入りした「立身出世」の人物だ。

83年に衆院選で中選挙区制時代の旧2区（小林市など）に無所属で初めて出馬し、落選。86年の衆院選で初当選を果たし、2期務めたが、93年に再び落選した。そこで小選挙区制が導入された96年は県都・宮崎市が中心の1区にくら替えした。

「あのくら替えで、離れた支持者もあった」と振り返る。また「当時から支持者にトップ当選を果たしは検証するが多く、日教組批判も昔からの持論だろう」と話した。

また、1区以外の自民党県議は「単一民族とか日教組とか、野党はうなもの。やめて当然だ」と言葉を述べた。

「安倍さんや福田さんに続き、また自民党は『大臣を投げ出した』と思い印象を残した」と選挙戦での悪影響を心配した。

残念だが薩摩男の覚悟

下津佐・元小林市議

元秘書で、元小林市議会議長の下津佐義治さん（63）は3日午後、中山氏の秘書から不出馬の意向を聞いた。

「残念だが、薩摩男の覚悟だ」と無念さをにじませた。

選挙戦を乗り切れないと観念

民主県連

民主県連の井上哲雄幹事長は「後援会に対して、説明や説得が難しくなる。選挙戦を乗り切れないと観念したのではないか」と話す。

野党

県民の審判から逃げた

共産党県委

中山氏と同じく1区から出馬を予定していた共産党県委員会の馬場洋光出記長（38）は「出馬を聞いてびっくりした。自民党の県連が既に公認申請しているのに出馬するだろうと思っていたのに。中山氏の一連の問題発言で世間からの批判が強まって、県民の審判を受けるのが怖かったからだろう。発言後も、まって、県民の審判を受けるのが怖かったからだろう。発言後も、まって、県民の審判を受けるのが怖かったからだろう。発言後も、

市民の声

宮崎市内の女性（48）は「せっかく宮崎に来て、自民党に対する国民の政治的勢力が盛られると思ったのに残念。地元なので中山さんには頑張ってほしいと思っていたが、あんな人だと確認わかったと言う。冷静に受け止めていた。

宮崎市内の男性（62）は「責任を持ってやってほしかった」と語った。

宮崎市内の男性（62）は「責任を持ってやってほしかった」と語った。しかし、引退で全国的に宮崎の政治的勢力が盛られたことは残念。地元なので中山さんには頑張ってほしいと思っていたが、あんな人だと確認わかったと言う。冷静に受け止めていた。

宮崎市内の女性（48）は「せっかく宮崎に来て、自民党に対する国民の政治的勢力が盛られると思ったのに残念。地元なので中山さんには頑張ってほしいと思っていたが、あんな人だと確認わかったと言う。冷静に受け止めていた。

宮崎市内の男性（62）は「責任を持ってやってほしかった」と語った。

宮崎市内の男性（62）は「責任を持ってやってほしかった」と語った。

引責辞任の色合いが強い

社民県連

社民県連の島田敏一代表は「一連の発言は自民党にもダメージを与えた。引退のニュースを聞いたばかりなので、よく分からないが、引責辞任の色合いが強いのではないか」と述べた。

高校野球

◇九州地区高等学校野球（宮崎市）

▽開幕

▽2回戦

▽3回戦

▽4回戦

▽準々決勝

▽準決勝

▽決勝

▽決勝戦

▽第35回社会人野球日本選手権大会（毎日新聞社など主催）の九州地区予選は3日、熊本市の藤崎台球場で敢行された。

▽第61回九州地区社会人野球